

熊本高等専門学校	開講年度	令和04年度(2022年度)	授業科目	建築設備
科目基礎情報				
科目番号	0093	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築社会デザイン工学科	対象学年	5	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	空気調和・衛生設備の知識」空気調和・衛生工学会編 オーム社			
担当教員	齊藤 郁雄			

到達目標

- 空気調和設備の概要を理解し、熱負荷計算法について説明できる。
- 給排水衛生設備の概要を説明できる。
- 電気設備・防災設備の概要について説明できる。
- 持続可能な社会の構築に向けて建築設備の果たすべき役割について意見を表明することができる。

ループリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
1. 空気調和設備の概要を理解し、熱負荷計算法について説明できる。	熱源方式や各種空調方式の仕組みと特徴を十分に理解し、各建物の用途や熱負荷特性に合わせて適用することができる。	熱源方式や各種空調方式の仕組みと特徴を説明でき、空調負荷について定常計算法で見積もることが出来る。	熱源方式や各種空調方式の仕組みと特徴、熱負荷計算法について説明できない。
2. 給排水衛生設備の概要を説明できる。	給排水衛生設備の概要を十分に理解し、建物に適用することができる。	給排水衛生設備の概要を説明できる。	給排水衛生設備の概要を説明することができない。
3. 電気設備・防災設備の概要について説明できる。	電気設備・防災設備の概要を十分に理解し、建物に適用することができる。	電気設備・防災設備の概要を説明できる。	電気設備・防災設備の概要を説明することができない。
4. 持続可能な社会の構築に向けて建築設備の果たすべき役割について意見を表明することができる。	持続可能な社会の構築に向けて建築設備の果たすべき役割について十分に理解し、建築設備に関する正しい知識に基づいて、意見を表明することができる。	持続可能な社会の構築に向けて建築設備の果たすべき役割について意見を表明することができる。	持続可能な社会の構築に向けて建築設備の果たすべき役割について意見を表明することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	建築設備とは空調設備、換気設備、消火設備、給水設備、排水設備、電気設備など様々な機械、器具を用いて安全で快適な建築空間を創造するための技術の総称である。本授業では建築環境工学を基礎として、主に建物の空気調和設備と給排水衛生設備を中心に基礎知識を学び、設備設計の基本について理解する。
授業の進め方・方法	本授業では建築設備の基礎について省エネルギーや節水のための新技術について実例を交えながら概説する。また、空調負荷計算の演習や施設見学などを通じて建築設備の重要性や現状の問題点について考える。
注意点	本授業では教科書は参考書的に使用するだけなので、講義ノートが重要である。丸暗記的な学習ではなく、エネルギーや環境の視点から、進化し続ける建築設備を自ら学ぶ姿勢が重要である。質問や要望は隨時受け付けるので、教員室前の掲示を見て空き時間に訪れる。

授業の属性・履修上の区分

<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
-------------------------------------	---------------------------------	--	---

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週 授業ガイダンス、湿り空気の性質	湿り空気の性質を理解し、空気線図から空気の状態値を求めることが出来る。
		2週 湿り空気の状態変化	計算や空気線図を用いて湿り空気の状態変化を求めることが出来る。
		3週 空調設備の概要	空調設備の目的と、その概要を説明できる。
		4週 熱源方式1	一般熱源方式の仕組みと特徴を説明できる。
		5週 熱源方式2	特殊熱源方式の仕組みと特徴を説明できる。
		6週 新エネルギーの利用	建築設備における自然エネルギーや未利用エネルギー等の活用方法について説明できる。
		7週 空調方式	各種空調方式の違いと特徴を説明できる。
		8週 [前期中間試験]	
2ndQ	9週 答案の返却と解説、空調負荷計算1	空調負荷計算の概要について説明できる。	
	10週 空調負荷計算2	定常計算により、冷房負荷を見積もることが出来る。	
	11週 給水設備と給湯設備	給水設備と給湯設備のしくみや注意点について説明できる。	
	12週 管径の算定	給水配管の管径を見積もることが出来る。	
	13週 給水設備の汚染防止・衛生器具	給水設備の汚染防止の考え方と衛生器具の役割について説明できる。	
	14週 排水・通気設備	排水・通気設備の役割と仕組みについて説明できる。	
	15週 電気設備と防災設備	電気設備と防災設備の概要について説明できる。	
	16週 [前期定期試験]		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野 環境・設備	湿り空気、空気線図について説明できる。 給水方式について説明できる。	4 3	前1 前11, 前13, 前16

			使用水量について把握できる。	3	前11
			給排水管の管径の決定方法について知っている。	3	前12
			給湯方式について説明できる。	3	前11
			敷地内外の分流式・合流式排水方式について説明できる。	3	前14
			浄化槽について説明できる。	3	前14
			衛生器具について説明できる。	3	前13
			室内環境基準について説明できる。	3	前3
			熱負荷計算法、空気線図、空気の状態値について説明できる。	4	前2,前9,前10
			空気調和方式について説明できる。	4	前6,前7
			熱源方式について説明できる。	4	前4,前5
			必要換気量について計算できる。	3	前9,前10
			受変電・幹線設備について説明できる。	3	前15
			動力設備について説明できる。	3	前15
			照明・コンセント設備について説明できる。	3	前15
			情報・通信設備について説明できる。	3	前15
			消火設備について説明できる。	3	前15
			排煙設備について説明できる。	3	前12,前15
			火災報知設備について説明できる。	3	前15
			自然再生可能エネルギー(例えば、風力発電、太陽光発電、太陽熱温水器など)の特徴について説明できる。	3	前6
			エネルギー削減に関して建築的手法(建築物の外皮(断熱、窓など))を適用することができる。	4	前9,前10
			省エネルギー(コジエネレーション等を含む)について説明できる。	3	前5,前6
			建築設備(配線・管、配線・管スペース、施工法など)を、設備(自然環境・電気・空調・給排水の分野)計画に適用できる。	3	

評価割合

	試験	課題レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
専門的能力	80	20	100